

行政報告

令和6年8月29日

伊豆市長 菊地 豊

令和6年伊豆市議会9月定例会の冒頭にあたり、行政報告を申し上げます。

1 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を受けて

(1) 巨大地震注意に伴う防災対応について

去る8月8日に宮崎県日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生し、南海トラフ地震臨時情報が初めて発表されました。市では、地震への備えや避難方法の再確認を呼びかけるとともに、関係機関と連携し、観光客へ地震発生時の避難場所等を周知しました。各部署においては、公共施設の安全確認や業務継続計画に基づいた発災時の業務体制について再確認したところです。

また、津波被害が想定される土肥地区の観光事業者や地域の方々と今回の臨時情報の課題等について話し合うこととしており、改めて、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）を見据えた対応を早急に検討するなど、引き続き災害死者ゼロを目指し、災害対策に取り組んでまいります。

(2) 観光防災まちづくりの取組み

土肥地区では、全国初の「津波災害特別警戒区域（オレンジゾーン）」に指定されたことを契機に、地域一体となった津波に強いまちづくりを推進してまいりました。

この一環として建設した松原公園津波避難複合施設は、去る7月12日に竣工式を行い、供用を開始しました。地域の方々と観光客が安心して利用できる「防災」と「観光」の機能を兼ね備えた全国初の施設として、安全・安心と産業振興に寄与するものと期待しています。

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発令される中においても、土肥の海水浴客からは、「巨大地震注意が発表されていても、安心して来ることが出来た。」といったコメントが報道で見受けられるなど、積極的な津波防災の取組みがPR出来ているものと実感しており、今後も、地域一体となって、防災と観光を両立したまちづくりを推進してまいります。

2 市制20周年事業

(1) 記念ナンバープレートの交付について

市制20周年を記念した原付バイク用のオリジナルナンバープレートを作成し、8月1日から交付を開始しました。

このナンバープレートは、若手職員による「デザインラボ」が市制20周年を記念して作成したエンブレムをモチーフにデザインしたものです。

限定100枚のうち人気が集中する1番から3番のナンバーは、交付開始日に希望者による抽選を行いました。

このナンバープレートを通じて、市制20周年をPRできればと期待しています。

(2) 「いずのひ」について

今年度に伊豆市、来年度に伊豆の国市が、それぞれ市制20周年を迎えることから、毎月12日に両市内の店舗等で限定サービスを提供する「いずのひ」の取り組みを8月12日から開始しました。

この取り組みは、令和7年度末まで両市が連携して実施する予定で、8月27日現在で伊豆市内の24事業者に参加いただいております、今後も協力事業者を拡大し、20周年を祝う機運を高めるとともに、地域の活性化につながるよう市内外にPRし、盛り上げていきたいと考えています。

3 新リサイクルセンターの整備について

新リサイクルセンターの整備工事は、先般、施設の奥側に管理棟とストックヤードが完成いたしました。来月からは、新しいストックヤードで資源ごみ等の受入れを行いながら、施設の手前側に新たな受け入れ施設の整備を進め、令和6年度中の完成を目指しています。

また、市民サービスの向上や効率化を図るため、来年度から施設運営を民間に委ねることとし、現在、公募型簡易プロポーザルによる業者選定を進めており、年内を目途に業者を決定する予定です。

4 (仮称) 日向公園の整備について

(仮称) 日向公園は、狩野川沿いの立地を活かした水辺ならではの憩いの場として令和8年度中の完成を目指し、現在、造成工事及び芝生等の整備を進めています。

公園管理棟及びトイレ棟の建設は、明日、入札により業者を決定することとしており、令和7年7月末の完成を予定しています。

また、公園管理棟の東側に計画している危機管理センターは、昨日、安全祈願祭を行いました。災害対策の中核として、令和7年度中の完成を目指しております。

5 伊豆中学校開校に向けて

令和7年4月の伊豆中学校の開校に向け、建設工事は、完成まで4か月余りとなりました。外壁関係の工事がほぼ終わり、今後は、内装や外構工事に移ってまいります。

また、6月から8月にかけて、来年度から伊豆中学校へ通う児童・生徒等を対象に工事現場見学会を開催しました。子どもたちは「広くて大きなこの学校に早く通いたい」と感想を話し、開校に胸を弾ませる姿が見受けられました。

校歌は、作曲家でピアニストや指揮者としてもご活躍され、当市のグリーンコンサートにご出演いただいたことのある青島広志先生に作詞作曲をお願いすることにな

りました。青島先生は、数多くの校歌を手がけており、先月には、生徒の思いを曲作りに反映するため、各中学校の生徒との交流会を行いました。校歌の完成は、年内を見込んでおります。

6 デフリンピックの機運醸成に向けた取り組み

令和7年11月に開催されるデフリンピックまで約1年となりました。

去る7月30日と8月7日に手話こども教室を開催し、小学生がデフリンピックの選手を応援する手話を学びました。12月には、手話を交えた歌唱やデフリンピックに関連した手話を学ぶイベントを計画するなど、手話を広める取り組みを進めています。

また、市聴覚障がい者協会、手話サークル、市内こども園及び小中義務教育学校、伊豆総合高校等の協力を得て、デフリンピックを応援する手話動画を作成し、11月から修善寺駅のモニター等で放映を予定しています。

今後も、デフリンピックの啓発や手話の普及を図り、開催機運を盛り上げてまいります。

7 わさびの郷構想の拠点施設について

わさびの郷 I z u W a s a v i s i t o r C e n t e r (いずわさビジターセンター) は、去る4月12日にオープンし、8月27日現在で約2,400人が訪れています。このうち約3%が外国人で、わさびや中伊豆の里山に関心を持つ海外の方も少なくないようです。

7月からは、わさびの食体験としてわさびの食べ比べを始めたほか、夏限定でわさび狩り体験等を試行しています。

今後もイベントやモニターツアー等を通じて、静岡水わさびの伝統栽培、歴史的価値の伝承やわさびの魅力の発信等、伊豆市のわさびを核とした地域の活性化や生産の振興を目指してまいります。

8 森林環境譲与税活用事業について

森林環境譲与税を活用した新たな事業として、未就学児を対象に「森のようちえん」を開催しました。森のようちえんは、伊豆市の豊富な自然を活用した体験を通じ、森林の大切さや働きを知ってもらうことを目的として、本年度は全4回の開催を予定しています。

今後も森林環境譲与税を有効に活用し、森林整備や市産材の利用促進、人材育成、環境保全等を推進してまいります。

9 白岩の湯の再開について

配管等の不具合により再開を延期しておりました白岩の湯について、施設改修及び温泉管の復旧が完了し、来週9月6日から再開することといたしました。長い間ご不便をおかけしましたが、今後も市民の皆様にご利用いただきたいと思います。